

「美」「感」「創」のバランス これを上手に操る「遊」から 感性は生まれる」

感性インタビュー

小松電機産業代表取締役 小松昭夫氏



島根県にある小松電機産業は、工場入り口にとりつける高速シートシャッターと水処理システムを主力とするメーカーであり、売上高経常利益率は常時20%前後から30%台で推移している典型的なベンチャー企業だ。ユニークな「感性」をもつ小松昭夫社長に、感性と経営について聞いた。

スチールからビニールへ

—— 工場の出入り口に使われる高速シートシャッターおよび水処理の集中管理システムで、業績も順調ですね。

小松 最初の創業時は、元手もなかったものですから、農業用水池のポンプ修理からはじめ、ポンプの販売、水処理の自動制御、ビルの配電盤など電気制御システムへと拡張してきたのです。昭和57年の『くにびき国体』開催で島根県にも急速にインフラ整備が進み、業績も順調に当時は拡大してい

ました。

—— 高速シートシャッターというのは、いままでない商品ですが、開発のきっかけは。

小松 水処理システムも需要が一段落し、ビル配電盤も業者とトラブルがあつて、新商品開発の必要に迫られていたんです。

そうしたら、以前勤めていた会社、これは農機のメーカーだったので、そこから工場の出入り口のシャッターを作ってくれないかといわれたことがきっかけです。最初はあまりやりたくなかったんですがね(笑)。

—— シャッターというと、工場や店でスチール製というイメージがありますが。

小松 スチールは防犯にはすぐれているんですが、閉めると工場の中は暗くなってしまう、照明などの電気代もかかります。かといって開けっぱなしにしておくと寒い風や埃も入ってくる。また当時フォークリフトが工場にどんどん導入されてきて、シャッターの開け閉めは、わざわざフォークリフトから降りてやらなければならなかった。これも作業者にとっては面倒です。

そこで、素早く自動開閉し、か



小松電機産業概要

創業 1973年
設立 1981年
所在地 島根県八束郡八雲村
資本金 1億円
従業員 80名
売上高 35億5000万円(95.7月期)
経常利益 8億円(〃)

には、感性ということが必要にな
ってくるのです。感性がなければ、
そういった事業や先を見通す目は
生まれてきません。

——感性はどうやって磨けるの
でしょうか。

小松 キーワードは、「美」「感
創」ですね。

「美」というのは、シンプルとい
う意味です。シンプルなものには美
しい。つまり生き方をシンプルに
するということです。「感」という
のは、感ずること、感激、感動、
感謝です。「創」というのは、蓄え
たもので暮らすという意味です。
この3要素をつなげるのが「遊
循環させるものです。

話が抽象的ですが、こういうこ
とを念頭に置いて生活しなければ、
感性というのとはなかなか磨かれな

い。事業というのは興せない。未
来を見通す力も養われないうとい
うこと。また人間とは何かとい
う哲学、歴史、自然こういうもの
に接しないと、見えてこないですね。

——具体的にはどうすればよいの
でしょうか。

小松 V・S・O・Pとってい
ますが、Vはバイタリティです。
とにかく無我夢中で一生懸命やる。
一生懸命といっても、自分が一生
懸命ではないんですね。周りが見
ていて、「あの人は一生懸命やって
いるね」「いや本当は怠けていま
よ」これが本当の一生懸命です。
そうするとひとつくらいものにな
るのが出てくる。これがS、スペ
シャルリスト。次に同じスペシャリ
ストでも経験を積むことによって
その人独自の味が出てくる。これ
がO、オリジナリティです。そし

て人生を考える。そし
て死を迎えるにあつ
て、何に自分の
命を燃やすのかそ
ういうことを考え
るようになる。こ
れが最後のP、パ
ーソナリティです。
そして何をやっ
たら自分がいちば

ん楽しく愉快に人生を過ごせるか、
それを考えるんですね。

途中でやめるから失敗になる

——そのことを念頭に置いて生活
しても、人それぞれの感性に差が
あるのでは。

小松 何かをやる場合に、自分の
ため、相手のため、周りのためと
3つ相手があるとします。何にい
ちばんプライオリティを置くかに
よっても分かれます。

自分が1番、相手が2番、周り
が3番、こういう人は創業者に多
い、または創業者時代はこういう
人が多いです。相手が1番、自分
が2番、周りが3番こういう人も
います。周りが1番、相手が2番、
自分が3番こういう人もいる、事
業を行なう人は、最後のタイプだ
と思います。それぞれの役割分担
があり、適材適所がいいと思うの
ですね。ただし経営者、あるいは
事業を興す者にとっては、さらに
感性が必要だということですね。
そういうものがないと、社会に
おける声なき声がわからないわけ
ですから。

——感性が磨かれていても、やは
り失敗は避けられない？

小松 失敗というのは途中であき

らめてやめるから失敗になるんで
すよ。ある高い目標を設定して、
それを実現するために身近なとこ
ろをクリアしていきます。その過
程ではいろいろな障害が生じてき
ます。壁も出てきます。しかしあ
きらめずに方法を考えればあるん
ですね。ただ自分だけの力では無
理なこともある。その場合には、
ほかの人の力を借りる、あるいは
時を待つということですね。

——事業は儲かるのでしょうか。

小松 生業は素直な心があれば、
みんなの役に立つので、リスクは
ない。企業はリスクがあります。
移ろいやすい人をずっと留めてお
こうということですからね。とこ
ろが、事業は儲かる。企業は企て
ますので、「儲ける」、事業は「儲
かる」ということなんです。やつ
ている人も楽しい、サービスを受
ける人も喜ぶ、そういった仕事が
儲からないはずはありません。

私どものシートシャツも水
処理システムにしてもそのつもり
でやっております。みんなに喜ば
れるし、また省エネルギーという
ことから、エネルギーの問題にも
役立つ。若い人も、企業ではなく、
ぜひ事業を興す真のベンチャーを
めざしてもらいたいです。❖